

05.パルテノン神殿とリカヴィトスの丘



アテネのアクロポリスの丘にそびえるパルテノン神殿は、元々城塞としての立地から、聖地として形を変え、最終的に神殿として完成したのが紀元前 440 年頃で、ドーリア式の最高峰の建築とされている。(日本に置き換えると弥生時代。石の加工技術の高さに驚嘆)ドーリア式の特徴は柱が直接、床(基壇)に設置されているが、横にあるアテナ・ニケ神殿は、柱下に台座(礎盤)があり柱上部には装飾が際立ったイオニア式となっている。アテネからバス移動でメテオラに行く途中、道路際の山道のほとんどは大理石が露出している状態で、ガイドさんの話では、ギリシャでは木造と石積(大理石)では、大差がないとの事。パルテノン神殿の修復作業で使っているクレーンのバラスウェイトも大理石を使っているのには驚かされた。隣接にあるヘロデイス・アッティコス音楽堂の客席も、全て大理石で修復され、現在でも野外音楽堂として使われている。これらの遺跡のあるアクロポリスの丘と対座しているリカヴィトスの丘は、市街地で最も標高が高い丘でこの上まで地下ロープウェイで頂上に登り、アテネ市街地を 360° のパノラマの景色を見る事が出来

アテネの街並みに長い歴史を感じ取れた。短期間でのギリシャの世界遺産の研修旅行に満足しました。(石川 清郁)